

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
仏教学部	仏教学科	夜・通信	14				13	
	仏教学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
文学部	日本文学科	夜・通信	14				13	
	中国学科	夜・通信	14				13	
	英米学科	夜・通信	14				13	
	日本文学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
	中国学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
	英米学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
歴史学部	歴史学科	夜・通信	14				13	
	歴史文化学科	夜・通信	14				13	
	歴史学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
	歴史文化学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
教育学部	教育学科	夜・通信	14				13	
	幼児教育学科	夜・通信	14				13	
	臨床心理学科	夜・通信	14				13	
	教育学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
	幼児教育学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
社会学部	現代社会学科	夜・通信	14				13	
	公共政策学科	夜・通信	14				13	
	現代社会学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
	公共政策学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
社会福祉学部	社会福祉学科	夜・通信	14				13	
	社会福祉学科 (通信教育課程)	夜・通信	16				13	
保健医療技術学部	理学療法学科	夜・通信	14				13	
	作業療法学科	夜・通信	14				13	
	看護学科	夜・通信	14				13	
看護学部	看護学科	夜・通信	14				13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife>
<https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/practitioner2026.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.efbes.ac.jp/summary/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和7年5月29日 ～ 令和11年度定時評議員会終結時	法人・設置校の経営 計画へのチェック 機能
非常勤	株式会社役員	令和7年5月29日 ～ 令和11年度定時評議員会終結時	法人中長期計画へ のチェック機能
（備考）本法人寄附行為にて、理事の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	佛教大学
設置者名	佛教教育学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。		
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)		
本学のシラバスは、学生に授業の進め方や到達目標を明示するため「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」「到達目標」「毎回の授業テーマ・内容」「授業時間外の学修(予習・復習等)についての具体的な指示」「受講にあたっての留意事項」「成績評価の基準」「テキストについて」の項目を設け、本学ホームページと学生ポータルサイトで公表している。 シラバス作成時には、「シラバス作成要領」を教員に配付し、各項目の記入における注意事項を明記し、標準化された基準に沿って作成を促す等、授業の質向上に努めている。		
No	作成過程	作成時期
1	シラバス入稿準備 (「シラバス作成要領」作成、システム設定等)	11月下旬～12月上旬
2	シラバス入稿依頼	12月中旬～3月中旬
3	シラバス公開	3月下旬
〔通信教育課程〕		
通信教育課程も通学課程と同様であるが、自宅学習が基本となる「印刷教材等による授業(本学ではテキスト履修と称する)」においては対面による授業を行わないことから、「毎回の授業テーマ・内容」の代わりに、当該テキスト履修科目の「レポート設題」および「レポート学習の留意点」の項目を設けるなどの工夫を行っている。		
No	作成過程	作成時期
1	シラバス入稿準備 (「シラバス作成要領」作成、システム設定等)	10月下旬～11月下旬
2	シラバス入稿依頼	12月上旬～12月下旬
3	シラバス公開	3月上旬
授業計画書の公表方法	https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/text2026.pdf https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/schooling2026.pdf	

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、1年次、2年次および3年次の春学期に、外部業者によるアセスメントテストを実施しており、各学年における基礎学力、学習意欲、学修実態を調査している。また、学修成果に対する評価については、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、定期試験、レポート、実技等のような方法によって評価するかを予め明示している。

また、すべての学部において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を「STUDY GUIDE」「履修要項（2026年度入学者以降）」にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。なお、以下のとおり「修学規程」第4条・第5条で試験および成績評価を定めている。

(試験)

第4条 試験の種類は、定期試験、追試験および再試験とする。

2 試験は、筆記試験、レポート(論文)試験、口述試験、実技試験またはその他の方法によって行ない、その方法については別に定める。

(成績評価)

第5条 成績評価は点数をもって行ない、次の評語で表示する。また、本学が入学前の既修得単位によって認定した授業科目については、「認定」の評語で表示する。

S 100点～90点

A 89点～80点

B 79点～70点

C 69点～60点

D 59点以下

X 未受験

N 評価対象外

2 成績評価は60点(評語C)以上を合格とし、59点以下(評語D)、未受験(評語X)、評価対象外(評語N)は不合格とする。

〔通信教育課程〕

通信教育課程の学修成果に対する評価については、通学課程同様、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、テキスト履修については科目最終試験、スクーリング履修については試験またはレポートによって評価する旨を明示している。

成績評価は、シラバスに記載された成績評価の基準に基づき行っている。「単位修得・成績証明書」には合格科目のみが記載され、評価はA、B、C等が記載される。

点数	成績証明書の表示	評価の基準	判定
100～80	A	到達目標をほぼ完全に達成または十分に達成しており、優秀な成績を修めている	合格
79～70	B	不十分な点があるが、到達目標を相応に達成している	
69～60	C	到達目標の最低限は満たしている	
59～0	表示なし	到達目標を達成できていない 単位を与えるためにはさらに学修が必要	不合格

また、通信教育課程ではGPAを導入はしていないが、従来の成績評価により厳格かつ適正に評価を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 2019年度1年次入学者から適用されるカリキュラムよりGPAによる成績評価を導入するとともに、下記のとおり全学共通の成績評価基準を設け、統一的、標準的な基準によって成績評価を行っている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>点数</th><th>評価</th><th>GPA</th><th>成績評価基準</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100-90</td><td>S</td><td>4</td><td>到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている。</td></tr> <tr> <td>89-80</td><td>A</td><td>3</td><td>到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。</td></tr> <tr> <td>79-70</td><td>B</td><td>2</td><td>不十分な点はあるが、到達目標を相応に達成している。</td></tr> <tr> <td>69-60</td><td>C</td><td>1</td><td>到達目標の最低限は満たしている。</td></tr> <tr> <td>59-0</td><td>D</td><td>0</td><td>到達目標を達成できていない。単位を与えるためには更に学修が必要である。</td></tr> <tr> <td>未受験</td><td>X</td><td>0</td><td>定期試験を受験していない。</td></tr> <tr> <td>評価対象外</td><td>N</td><td>0</td><td>評価対象外などの場合。</td></tr> </tbody> </table> GPAの公表については、カリキュラム・ポリシーにその位置付けを明確にするとともに、学生には「STUDY GUIDE」「履修要項(2026年度入学者以降)」にて公表している。 GPAの算定方法については、以下のとおりである。 ■学期GPA $\frac{(\text{当該学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$ ■通算GPA $\frac{(\text{全学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{全学期の履修科目の総単位数}}$ GPAによる成績分布等を確認しながら、進級判定やさらには奨学金受給者の審査等にも活用する。 〔通信教育課程〕 通信教育課程においてはGPAを導入していないが、「佛教大学通信教育規程」において「授業科目の成績は100点満点とし、試験の結果60点以上を合格とする」こと、および、「単位を修得した授業科目について、A、BまたはCの評語をもって記載し、評語の基準は次のとおりとする」「A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点」とする旨を規定している。 成績評価基準については、通学課程の基準を準用している。				点数	評価	GPA	成績評価基準	100-90	S	4	到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている。	89-80	A	3	到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。	79-70	B	2	不十分な点はあるが、到達目標を相応に達成している。	69-60	C	1	到達目標の最低限は満たしている。	59-0	D	0	到達目標を達成できていない。単位を与えるためには更に学修が必要である。	未受験	X	0	定期試験を受験していない。	評価対象外	N	0	評価対象外などの場合。
点数	評価	GPA	成績評価基準																																
100-90	S	4	到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている。																																
89-80	A	3	到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている。																																
79-70	B	2	不十分な点はあるが、到達目標を相応に達成している。																																
69-60	C	1	到達目標の最低限は満たしている。																																
59-0	D	0	到達目標を達成できていない。単位を与えるためには更に学修が必要である。																																
未受験	X	0	定期試験を受験していない。																																
評価対象外	N	0	評価対象外などの場合。																																
客観的な指標の算出方法の公表方法		https://www.bukkyo-u.ac.jp/students/studyguide/ https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/data/dp/disclosure/evaluation2020.pdf																																	

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

佛教大学のディプロマ・ポリシー

以下に示す力を修得するとともに、学部・学科の人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修めた学生に対して、本学は卒業を認定し学位（学士）を授与します。

仏教精神

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合して活用することができる

知識・理解・汎用的技能

社会人として必要な幅広い教養や、専攻する学問分野の体系的な理解に不可欠な多様な知識・技能を身につけ、活用することができる

1. 多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えることができる
2. 文化、自然、社会に関する知識により、体系的に物事を考えることができる
3. ICTを活用して、多様な情報を収集・分析し、効果的に活用することができる
4. 自己理解を深め、職業観を持ち、自らのキャリアを決定することができる

専攻する学問分野における専門的な知識や技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる

1. 専門領域に必要な基礎的な知識や視点を習得している
2. 専門領域の深い知識や技能を習得している
3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる
4. 社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる

態度・志向性

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、専攻する学問分野で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる

学びと成長への内発的動機

自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる。

以上を大学の基本とし、各学部学科においてもディプロマ・ポリシーを制定している。また、学部学科ごとに卒業所要単位と要件、卒業論文・卒業研究・卒業レポート作成・提出の手順および卒業所要単位充足者発表のスケジュール等を学生に示している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	●ディプロマ・ポリシー https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/ ●卒業に必要な科目と単位 https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/complete/necessity/ https://www.bukkyo-u.ac.jp/students/studyguide/ ●卒業について https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/course/graduation/ https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp/learn/flow/
----------------------	--

様式第2号の4－①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人ホームページにて公表 https://www.efbes.ac.jp/summary/
収支計算書又は損益計算書	法人ホームページにて公表 https://www.efbes.ac.jp/summary/
財産目録	法人ホームページにて公表 https://www.efbes.ac.jp/summary/
事業報告書	法人ホームページにて公表 https://www.efbes.ac.jp/summary/
監事による監査報告（書）	法人ホームページにて公表 https://www.efbes.ac.jp/summary/

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度： ）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度： ）
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/approach/

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/approach/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 仏教学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表 仏教学部： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html ）
（概要） <u>佛教大学の教育研究上の目的</u> 佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。 <u>人材養成の目的</u> 仏教学部は、仏教および仏教に関連する領域についての基礎知識と専門知識を修得し、それらの知識を活用して問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して、解決策を論理的に表現することを通じて、仏教の魅力を発信したり、現代社会が抱える諸問題に対応することができる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表 仏教学部： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html ）
（概要） 1. ブッダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野について説明することができる 2. 仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用することができる 3. さまざまな言語で記述された資料を適切に読解して、問題解決に必要な情報を収集することができる 4. 仏教史の概要を説明することができる 5. 収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができる 6. 現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用することができる 7. 仏教の魅力を発信することができる 以上に示す仏教学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表 仏教学部： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ （仏教学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html ）

(概要) <u>教育課程の編成方針</u> 仏教学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。 また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、演習、フィールドワークなどを適切に組み合わせた科目を提供します。 <u>教育課程実施の方針</u> 1. ブッダと法然の生涯と思想、ならびにそれらから展開した思想の概要と学問分野を説明できるようになるために、学部基幹科目を提供する。 2. 仏教を学ぶにあたって必要な研究資源と研究技法を活用できるようになるために、学科基礎科目の中に「アカデミック・スキルズ」「基礎ゼミ」を提供する。 3. さまざまな言語で記述された資料を適切に読解し、情報を収集できるようになるために、学科基礎科目の中に「古文入門」「古文上級」「漢文入門」「漢文上級」「サンスクリット語入門」「サンスクリット語上級」「パーリ語」「チベット語」を提供する。 4. 仏教史の概要を説明できるようになるために、学科専攻科目の中に共通科目群を提供する。 5. 収集した情報を、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析し、表現することができるようになるために、学科専攻科目および関連科目を提供する。学科専攻科目には、論理的に表現できるようになるためのゼミ科目群、歴史的展開を踏まえた上で論理的に分析できるようになるための仏教学系、文化（思想・文学・美術）系、僧侶養成系科目群、および関連科目を提供する。 6. 卒業後の進路に応じた各種の免許状・資格を取得することができるよう関連科目を提供する。 7. 現代社会が抱える問題を把握し、仏教をそれらの諸問題への対応に活用できるようになるため、学科専攻科目に現代社会と仏教科目群、および関連科目を提供する。 8. 仏教の魅力を発信することができるようになるために学科専攻科目に現代社会と仏教科目群、および関連科目を提供する。 <u>学修成果の評価方針</u> 学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す 4 種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。 1. 筆記試験による評価 2. レポート試験による評価 3. 実技試験による評価 4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価 入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 仏教学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/ (仏教学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-bukkyo/buddhism.html) (概要) <u>求める学生像</u> 仏教学部は、仏教および仏教に関連する領域についての基礎知識と専門知識を修得し、それらの知識を活用して問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析して、解決策を論理的に表現することを通じて、仏教の魅力を発信することや、現代社会が抱える諸問題に対応できる人材を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。 1. 人間の精神・歴史・芸術・社会・文化などについて、高等学校等で学ぶ基礎的な知識と

分析力を備えている人【知識・技能】 2. 仏教（インド・チベット・中国・日本など）および仏教に関連する領域（歴史・文学・美術など）に対して、強い関心と探究心を持ち、そのことを表現できる人【思考力・判断力・表現力】 3. 仏教の魅力を発信することや、仏教の考え方によって、現代社会が抱える諸問題に、主体的に対応する意欲を有する人【主体的に取り組む態度】 4. 浄土宗教師（浄土宗僧侶）となって浄土宗の教えを受け継ぎ、さらに広めていこうという意欲を有する人【主体的に取り組む態度】 <u>大学入学までの学修の方針</u> 高等学校等までの学習では、仏教と関連が深い教科である「国語」「地理歴史」を中心としつつ、「外国語（英語）」「公民」など、仏教学部での専門的な学修に必要な基礎学力を身につけるための教科についても幅広く学習していることを望みます。

学部等名 文学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 文学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/ （日本文学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html 中国学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html 英米学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html）
（概要） <u>佛教大学の教育研究上の目的</u> 佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。 <u>人材養成の目的</u> 文学部の人材養成の目的 文学部は、大学の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、文学、文化および言語に関連する領域に関わる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材の養成を目的とします。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 文学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/ （日本文学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html 中国学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html 英米学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html）
（概要） 1. 社会のさまざまな事象について、建学の理念によって培われた倫理観に基づいて判断を下し、かつ修得した知識を活用して社会的責任を果たすことができる 2. 日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけている 3. 日本、中国、英語圏の諸言語・諸文化に関するそれぞれの専門領域において、テーマを設定して自らの見解をまとめることができる 4. 選択した専門領域以外の関連領域について、基礎的な知識を身につけている

5. 国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる一定の知識と能力を身につけている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および文学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

文学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/>)

(日本文学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html>

中国学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html>

英米学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html>)

(概要)

教育課程の編成方針

文学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。
また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。また、日本文学科、中国学科、英米学科それぞれの専門性に対応した教員免許状取得希望者のために関連する科目を提供します。

教育課程実施の方針

1. 日本、中国に代表される東アジア、および英米を中心とした英語圏の言語や文化に関するそれぞれの専門領域において、深い知識と理解力を身につけるため学部基幹科目に、世界の言語や文化の多様性を理解する基礎となる「中国語と中国文化」「英語と英米文化」「世界の言語と文化（朝鮮語）」「世界の言語と文化（ベトナム語）」「世界の言語と文化（フランス語）」「世界の言語と文化（ドイツ語）」を提供する
2. 言語や文化の知識や理解を深めるために各学科に包摂される学問分野に基づいた学科基礎科目を提供する
3. 学修成果を、自らの言葉で論理的に表現できる力を養うため、「アカデミック・スキルズ」および4年次に「卒業研究ゼミ」を設ける
4. 国際交流の場において、相互理解のために情報の受信者あるいは発信者として活動できる知識と能力を身につけるために、長期の海外留学制度を提供する

学修成果の評価方針

学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文および卒業研究レポートの評価は、論文やレポートの内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

1. 筆記試験による評価
2. レポート試験による評価
3. 授業内のプレゼンテーション等による評価
4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表

文学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/>)

(日本文学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/japanese.html>

中国学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/chinese.html>

英米学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-literature/english.html>)

(概要) <u>求める学生像</u> 大学の人材養成の目的その他の教育研究上の目的を踏まえ、文学、文化および言語に関連する領域にかかわる知識を活用して、自己および他者を見つめて相互理解を形成し、さらに世界の多様性を踏まえて社会で活躍できる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。 1. 興味をもった事柄や分野についての本を読み、その内容についてまとめることができる人【知識・技能】 2. 日本語、中国語、英語などの言語について学ぶための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】 3. 日本や外国の文学や思想、文化について学ぶための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している人【思考力・判断力・表現力】 4. 外国語を活用して仕事をしたり、国際交流などの場において活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】 5. 日本と外国の相互理解のための知識や能力を身につけたいと考えている人【主体的に取り組む態度】 <u>大学入学までの学修の方針</u> そこで、高等学校等での学習では、「国語」「外国語（英語）」、その他の外国語を中心としつつ、日本の文化・歴史に関する教科、あるいは中国語圏の文化や歴史にかかわる教科、あるいは英語圏の文化や歴史にかかわる教科について幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的ににかかわる意志や姿勢、あるいは異文化理解や異文化交流に積極的な姿勢を有していることを望みます。
--

学部等名 歴史学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 歴史学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/ （歴史学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html 歴史文化学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html）
(概要) <u>佛教大学の教育研究上の目的</u> 佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。 <u>人材養成の目的</u> 歴史学部は、建学の理念に基づき、過去から現代に至る人間の営みを見つめることを通して、豊かな「人間力」をもち、社会人として必要な教養や技能を身につけた人材を養成します。さらに、歴史学の学修を通して、時間的・空間的な多様性を理解し、自己とそれを取り巻く文化・社会を客観的に捉え、人間・社会・文化等の歴史的な事象についての幅広い知識と多様性への理解に裏打ちされた洞察力と判断力を備えた人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 歴史学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/ （歴史学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html

歴史文化学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html)
(概要) 1. 建学の理念に基づき、豊かな人間性と社会とを支える広い教養を身につけている 2. 過去を探る学術的な方法について理解している 3. 歴史的な情報を史資料に基づき分析、解釈できる 4. 個人・文化・社会に関わる多様な価値観の存在を理解する 5. 形成した歴史像を自らの言葉で論理的に表現できる 6. 時間的空間的な多様性を理解し、課題を発見しようとする姿勢を有している 7. 過去の社会や文化に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成しようとする 以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および歴史学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表 歴史学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/) (歴史学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html 歴史文化学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html)
(概要) <u>教育課程の編成方針</u> 歴史学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。 教育課程（カリキュラム）は、学部には設けられた歴史、歴史文化それぞれの学科で学修する領域を考慮しながら編成します。 また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実習、演習、研修（臨地研修・フィールドワーク）などを適切に組み合わせた科目を提供します。 <u>教育課程実施の方針</u> 1. 過去を探る学術的な方法について基礎的な理解を目指し、各種概論を中心とした学部基幹科目を提供する 2. 歴史的な情報を史資料に基づき分析、解釈できる力を養うため、各学科に包摂される学問分野に基づいた学科基礎科目を提供する 3. 課題を発見しようとする姿勢を養い、自らの見解を形成する力の要請を目指すため、2年生以降の各学年においてゼミ科目を提供する 学修成果を、自らの言葉で論理的に表現できる力を養うため4年次に「卒業論文」の執筆を前提とした「卒業研究ゼミ」を提供します。 専門教育の学修内容を補完し、より幅の広い学修を促すため、多彩な関連科目を設定する。両学科の関連科目は過去の事象をさまざまな角度から考察する歴史学という学問の特性を考慮して互いに履修可能となるよう設定し、横断的な学修を担保します。 <u>学修成果の評価方針</u> 学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、ルーブリックを用いた論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。 1. 筆記試験による評価 2. レポート試験による評価

3. 実技試験による評価 4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 歴史学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/) (歴史学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/historical.html) 歴史文化学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-history/culture.html)
(概要) <u>求める学生像</u> 歴史学部では、歴史の学びによって思考力・判断力・表現力が涵養された人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。 1. 世界史・日本史・地理など地理歴史科目のいずれかについてより広範な知識を有している人【知識・技能】 2. 自分の考えを言葉や文章で表現できる人【思考力・判断力・表現力】 3. 歴史や文化について関心のある人【主体的に取り組む態度】 4. 大学での学修を活かして、社会に積極的にかかわろうとする人【主体的に取り組む態度】 <u>大学入学までの学修の方針</u> そこで、高等学校等での学習では、「地理歴史科目」を中心としつつ、専門的な学修に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。
学部等名 教育学部（通学課程）（通信教育課程）
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表） 教育学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/) (教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html) 幼児教育学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html 臨床心理学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html)
(概要) <u>佛教大学の教育研究上の目的</u> 佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。 <u>人材養成の目的</u> 教育学部は、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤とした上で、教育・心理職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の発達成長や心の健康における諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 教育学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/) (教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html) 幼児教育学科：

https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html 臨床心理学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html
(概要) 1. 仏教精神に基づく 4 つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学や臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができる 2. 教育学・臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる ア、教育学・臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している イ、教育学・臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得をしている ウ、社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる エ、社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる 3. 社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学・臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長や心の健康に貢献することができる 4. 目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りにより、それまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる 以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および教育学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 教育学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/ （教育学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html 幼児教育学科： https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html 臨床心理学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html）
(概要) <u>教育課程の編成方針</u> 教育学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、「理論と実践の往還」を踏まえ、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、講読、実技、実験、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。 <u>教育課程実施の方針</u> 仏教精神に基づく 4 つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、教育学や臨床心理学領域の知識や技能と統合して活用することができるようにするために、実習やインターンシップ科目を提供すると共に、学習方法にアクティブ・ラーニングやグループワークを組み込みます。

教育学・臨床心理学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から新たに知識構築や技能修得し、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目からなる専門教育を体系的に編成します。

1. 教育学・臨床心理学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学部基幹科目として「教育原論」等の科目を提供する
2. 教育学・臨床心理学領域の深い知識構築や技能修得し、学びの意欲と見通しを持つために、学科ごとに学科基礎科目として「アカデミック・スキルズ」「教育学基礎演習」「臨床心理学基礎ゼミ」等の科目を提供する
3. 社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する
4. 社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目として「教育学演習」「卒業論文演習」「臨床心理学ゼミ」「卒業研究ゼミ」等の科目を提供する

社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学・臨床心理学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長や心の健康に貢献することができるようにするために、関連科目として「教育実習」等の科目を提供すると共に、学習方法に演習・実験やアクティブ・ラーニング、グループワークを組み込みます。

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員・学び続ける心理学の実践家）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身につけた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる関連科目や通信教育課程の併修制度等を提供します。

学修成果の評価方針

学修成果として形成した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す 4 種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業論文の評価は、論文の内容に関する評価と口頭試問評価によって行います。

1. 筆記試験による評価
2. レポート試験による評価
3. 実験・実習・インターンシップ等の取り組み状況による評価
4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

教育学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/>）

（教育学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/education.html>

幼児教育学科：

<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/childhood-education.html>

臨床心理学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-education/psychology.html>）

（概要）

求める学生像

教育学部は教育・保育・心理職の重要性を自覚し、「理論と実践の往還」のもとで構築した知識・技能を活用して、協働的に子ども・人の健やかな発達成長や心にかかわる諸課題の解決・支援と新たな創造に取り組むことができる人材を養成します。そのために、次の

ような学生を求めています。

1. 教育学・臨床心理学を学修するに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】
2. 常に社会（特に学校・園や臨床心理学の必要とされる現場）に関する問題意識を持ち、他者と協力して諸課題の解決や今後のあり方を論理的に考えようとする人【思考力・判断力・表現力】
3. 将来、教育・保育・心理職として活躍したいと考えている人【主体的に取り組む態度】
4. 自身の目標を設定し、それに向けて弛まぬ努力を惜しまない人【主体的に取り組む態度】

大学入学までの学修の方針

高等学校等までの学習では、学習指導要領にある「各学科に共通する各教科」（例えば国語や芸術、外国語など）を幅広く学習するとともに、得意教科を持つことを望みます。

学部等名 社会学部（通学課程）（通信教育課程）

教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表）

社会学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/>

（現代社会学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html>

公共政策学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html>）

（概要）

佛教大学の教育研究上の目的

佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。

人材養成の目的

社会学部は、仏教精神に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、感謝の精神と社会人としての教養を備え、自己を見つめる力、自分の考えを伝え他者の考えを理解する力、他者を尊重しともに行動する力を身につけ、社会学または公共政策をはじめとする各専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力をもち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材を養成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

社会学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/>

（現代社会学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html>

公共政策学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html>）

（概要）

1. 社会学または公共政策学の領域における専門的な知識や技術を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる
ア、社会学または公共政策の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
イ、社会学または公共政策の領域の深い知識や技能を修得している
ウ、社会学または公共政策の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる

エ、社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる 2. 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる 3. 自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる 以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および社会学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 社会学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/) (現代社会学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html) 公共政策学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html)
(概要) <u>教育課程の編成方針</u> 社会学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性をもって教育課程（カリキュラム）を編成します。 また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、演習、実習などを適切に組み合わせた科目を提供します。 <u>教育課程実施の方針</u> 社会学または公共政策学の領域における専門的な知識・技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決のために、その知識・技能を活用することができるようにするため、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目からなる専門教育を体系的に編成します。 1. 社会学または公共政策学の領域に必要な基礎的な知識や視点を修得するために、学部基幹科目に「現代社会論」「公共性と社会」を提供する 2. 社会学または公共政策学の領域の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができるようにするために、学科ごとに学科基礎科目（現代社会学科：「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、公共政策学科：「アカデミック・スキルズ」「公共政策学（概論）」「公共政策学（各論）」）を提供する 3. 社会学または公共政策学の領域の深い知識や技能を修得するため、学科ごとに学科基礎科目（現代社会学科：「アカデミック・スキルズ」「社会学史（古典）」「社会学史（現代）」、公共政策学科：「アカデミック・スキルズ」「公共政策学（概論）」「公共政策学（各論）」）を提供する 4. 社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができるようにするために、学科ごとに学科専攻科目（現代社会学科：「現代社会学ゼミ」「現代社会学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」、公共政策学科：「公共政策学ゼミ」「公共政策学卒業研究ゼミ」「卒業レポート」）を提供する 社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、社会学または公共政策学の領域で身につけた知識や技能等をもとに社会に貢献することができるようにするため、講義、アクティブ・ラーニング、PBL、インターンシップ、グループワーク、

演習、実習など、多様な学習方法を組み込んだ科目を提供します。
目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び続け、他者と協働的に学び、ともに成長することができるよう、自身の興味関心に合わせて学びの幅を広げる科目や、自らが社会問題と向き合う PBL 科目等を提供するとともに、人生の多様なステージや目的に応じて学びを深める機会を提供します。

学修成果の評価方針

学修成果として修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下に示す 4 種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。また、卒業研究レポートの評価は、レポートの内容に関する評価によって行います。

1. 筆記試験による評価
2. レポート試験による評価
3. プレゼンテーションによる評価
4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

社会学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/>

（現代社会学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/modern.html>

公共政策学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-sociology/public.html>）

（概要）

求める学生像

社会学部では、社会学や公共政策学をはじめとする専門領域の学びを通して、現代社会の諸課題に積極的に取り組むために必要な専門性と実行力をもち、主体的に共生社会の形成に貢献できる人材の養成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 社会学、公共政策学と関連分野を学ぶ基礎となる学力を有する人【知識・技能】
2. 他者の考えを理解するとともに尊重し、共に行動できる人【思考力・判断力・表現力】
3. 学習や体験を通じて社会に対する問題意識を有する人【主体的に取り組む態度】
4. 現代社会の諸課題に積極的に取り組む意欲がある人【主体的に取り組む態度】

大学入学までの学修の方針

そこで、高等学校等での学習では、コミュニケーション能力にかかわる「国語」「外国語（英語）」を中心としつつ、「数学」「公民」など、専門的な学修に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。また、多くの人と積極的にかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

学部等名 社会福祉学部（通学課程）（通信教育課程）

教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表）

社会福祉学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/>

（社会福祉学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html>）

（概要）

佛教大学の教育研究上の目的

佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。

<u>人材養成の目的</u> 社会福祉学部は、多様な人々と安心して暮らせる地域社会のために、相互理解や権利意識を持ち、福祉の歴史や原理を社会に活かす力を身につけるとともに、自分の価値を大切にしつつ、異なる価値観を持つ相手とも対話を重ね、社会の課題を新たな可能性の機会として捉えられる人材を養成します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/) (社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html)
(概要) - 多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会の様々な領域で活かすことができる ア、自分とは異なる立場の考え方を理解することができる イ、社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができる ウ、培われてきた福祉の歴史や原理をもとに次の社会を展望できる - 自らの価値を大切にしながら、価値が相違する相手とも丁寧に対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができる ア、自らの意思や感情を他者に応じて表現することができる イ、生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができる ウ、社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができる - 誰もが平等に扱われ自由に安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができる 以上に示す社会福祉学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/) (社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html)
(概要) <u>教育課程の編成方針</u> 社会福祉学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた知識・理解・汎用的技能などの力を修得できるように、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性・体系性のある教育課程（カリキュラム）として編成します。また学習方法については、教育課程の目的が十分に達成できるよう、講義、実技、実習、演習などを適切に組み合わせた科目を提供します。 <u>教育課程実施の方針</u> 多様な人々とともに生きるために必要とされる相互理解に不可欠な知識、教養、技能を身につけ、現実社会と関連づけた権利意識に基づき、福祉の歴史や原理を社会のさまざまな領域で活かすことができるよう、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目等からなる専門教育課程を体系的に編成します。 - 自分とは異なる立場の考え方を理解できるよう、学部基幹科目として「現代の社会問題とアクション」「福祉とケアの倫理」を提供する - 社会や日常の出来事を権利の視点から考えることができるよう、学部基幹科目として「人権と福祉」、学科基礎科目として「社会保障論」を提供する

3. 培われてきた福祉の歴史や原理をもとに社会を展望できるよう、学科基礎科目として「社会福祉史」「社会福祉原論」を提供する 自らの価値を大切にすると同時に、価値が異なる相手とも丁寧な対話を進め、日々、社会で起こる諸課題を新たな価値の創出機会と捉えなおすことができるよう、社会福祉の実践に基づいた教育課程を提供します。 1. 自らの意思や感情を他者に応じて表現することができるよう、学科基礎科目として「地域共創演習」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク演習（専門）」を提供する 2. 生活背景を踏まえて他者の視点や立場を想像することができるよう、学科基礎科目として「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」、学科専攻科目として「ソーシャルワーク演習（専門）」を提供する 3. 社会の諸課題を新たな可能性を生み出すきっかけにすることができるよう、学科基礎科目として「若者支援論」「ソーシャル・ビジネス論」、学科専攻科目として「地域共創演習」をそれぞれ提供する 誰もが平等に扱われ自由で安心して暮らせる地域社会をめざして、必要とされるケアや環境を追求し続けることができるよう、学科基礎科目・学科専攻科目・関連科目において各資格・免許状に応じた科目を提供する <u>学修成果の評価方針</u> 授業を通じて修得した力や内容の評価するために、科目の特性に応じて、以下の4種類の評価方法を組み合わせて評価を行います。 <u>筆記試験による評価</u> 4. レポート試験による評価 5. 実技試験または実習による評価 6. 授業への取り組み状況や授業内小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価 入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学HPにて公表） 社会福祉学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/ （社会福祉学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-social/social.html） （概要） <u>求める学生像</u> 社会福祉学部では、さまざまな人々が安心して一緒に暮らせる社会を目指して学びを深めます。他の人の考え方を理解したり、一人ひとりが持つ権利について考えたりする力を育てます。また、自分の大切な価値観を守りながら、違う考えを持つ人々とも話し合い、社会の問題を解決する新しいアイデアを生み出す力を身につけます。社会福祉学部では、こうした考え方や目標に共感し、専門的な分野に興味を持って積極的に学ぼうとする人や、他の人と協力しながら自分の夢や社会に役立つことを実現しようとする人を受け入れます。そのために、次のような学生を求めています。 1. 必要な情報を適切に読み取り複数の点から物事を捉えられる人【知識・技能】 2. 憲法に定められている国民の権利について理解している人【知識・技能】 3. 社会が発展してきた過程を理解している人【知識・技能】 4. 自分も他者も大切にするための手段や方法を考えられる人【思考力・判断力・表現力】 5. 自分とは違う意見や視点に関心をもって他者と接することができる人【思考力・判断力・表現力】 6. 世の中の常識に疑問や違和感をもったことがある人【主体的に取り組む態度】 <u>大学入学までの学修の方針</u>

高等学校等までの学習では、社会福祉と関連が深い教科である「国語」「地理歴史」を中心としつつ、「外国語（英語）」「公民」など、専門的な学修に必要な基礎学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。

学部等名 保健医療技術学部（通学課程のみ）

教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表）

保健医療技術学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/>

（理学療法学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html>

作業療法学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html>）

※保健医療技術学部看護学科は 2026 年度より学生募集停止

（概要）

佛教大学の教育研究上の目的

佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。

人材養成の目的

保健医療技術学部は、高い倫理観と他者への思いやりや円滑なコミュニケーション能力を有し、人々の健康に貢献できる人材を育成します。また、保健・医療に関する知識と専門職としての技術を持ち、生涯にわたって自己研鑽を続ける力を備える人材を育成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

保健医療技術学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/>

（理学療法学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html>

作業療法学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html>）

（概要）

1. 保健・医療に関する基礎的な知識と、専門職としての基本的な実践能力を有している
2. さまざまな環境で生活する人々の健康に貢献するために、情報や知識を収集・分析し、適切な説明・報告をすることができる
3. 豊かな人間性と倫理観を基盤に、保健・医療・健康に携わる者として人を思いやり共感できる
4. 関係する全ての人々と良好なコミュニケーションをとる能力を有している
5. 多職種連携における専門職としての自身の役割を理解し、協働することができる
6. 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心を持ち、目標を持って生涯にわたり自己研鑽し続ける力を持っている

以上に示す力を修得するとともに、佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および保健医療技術学部各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

保健医療技術学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/>

（理学療法学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html>

作業療法学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html>）

(概要) <u>教育課程の編成方針</u> 保健医療技術学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定めた保健・医療に関する知識、専門家としての心構えや資質、実践能力などの修得に向け、学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目、関連科目を順次性、体系性を持って教育課程（カリキュラム）を編成します。また医療専門職の国家資格やその他の資格取得といった個々の学修目的に合わせて、講義、演習、実習、学外（施設）実習などを適切に組み合わせ階層的に配置します。 <u>教育課程実施の方針</u> 1. 保健・医療に関する基礎的な知識と、専門職としての基本的な実践能力の修得に向けた基盤となる科目として学部基幹科目、学科基礎科目を提供する 2. さまざまな対象者の健康に貢献するために、情報や知識を収集・分析する方法や、それらを適切に説明・報告するための手法が修得できるように、学科基礎科目、学科専攻科目を提供する 3. 豊かな人間性や倫理観などの社会人としての資質を育み、それらを専門職の基盤とするために学部基幹科目や学科基礎科目、学科専攻科目を配置し、講義や演習、学外（施設）実習を提供する 4. コミュニケーション力の向上を目的として学科専攻科目における学内演習・実習、学外（施設）実習を提供する 5. 自己研鑽の重要性を認識し、演習などでそれを実行できる素地を育成できるよう学部基幹科目、学科基礎科目、学科専攻科目・関連科目による講義や演習、学外（施設）実習を提供する <u>学修成果の評価方針</u> 学修成果として修得した力や内容を評価するために、科目の特性に応じて以下に示す評価方法を組み合わせ評価を行います。 1. 筆記試験による評価 2. 実技試験による評価 3. レポート試験による評価 4. 各種提出物の内容に関する評価 5. 科目担当者が指定する方法による評価（授業への取組状況や授業内小テストなど） 6. 学科が定める学外（施設）実習の評価 入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP にて公表） 保健医療技術学部：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/ （理学療法学科）：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/physical.html 作業療法学科：https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-healthcare/occupational.html
(概要) <u>求める学生像</u> 保健医療技術学部では、高い倫理観と他者への思いやり、円滑なコミュニケーション能力を有し、医療・福祉および健康支援に関する専門的な知識と技術を修得することを教育の基盤としています。また、生涯にわたって自己研鑽を続けながら、自己実現や社会貢献、人々の健康や生活の質の向上に主体的に取り組むことのできる人材の育成を目的としています。このような本学部の理念に共感し、各専門分野への強い関心と向学心を持ち、他者と協調・協働しながら主体的に学び、将来にわたって社会に貢献しようとする多様な人を受け入れます。そのために、次のような学生を求めています。 1. 専門科目を学修するに必要な基礎学力を有する人【知識・技能】 2. 直面する問題に立ち向かい、問題解決のために効果的なあり方を考え、行動することができる思考力・創造性と判断力を有する人【思考力・判断力・表現力】

3. 相手に伝わるように内容を十分に咀嚼し、分かりやすい言葉で話せる表現力を有する人【思考力・判断力・表現力】
4. 専門領域のプロフェッショナルを目指す高い目的意識をもち、真摯な取り組みのできる人【主体的に取り組む態度】
5. 社会や地域に貢献したいという意欲を有する人【主体的に取り組む態度】

大学入学までの学修の方針

専門分野を学修するために必要な基礎学力（読解力、表現力、論理的思考力）があり、目指す専門領域に強い興味をもち常に学び続ける生涯学修の意欲を有する人を望みます。

学部等名 看護学部（通学課程のみ）

教育研究上の目的（公表方法：大学 HP にて公表）

看護学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/>

（看護学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/nurse.html>）

※看護学部看護学科は 2026 年度新設

（概要）

佛教大学の教育研究上の目的

佛教大学は、学則第 1 条に基づき、建学の理念である仏教精神の 4 つの力（①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力）を基盤として、基礎的な知識や素養、専門的な知識・技能を身につけ、学修経験を統合し主体的に自己実現や社会貢献に向けて活動することのできる人材を養成するとともに、そのために必要な教育研究活動を展開し、それらを通じて社会に貢献していくことを目的とします。

人材養成の目的

看護学部は、豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材を養成します。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材を養成します。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

看護学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/>

（看護学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/nurse.html>）

（概要）

1. 豊かな人間性と倫理観を基盤に、看護職として人を思いやり共感できる
 2. 看護学および隣接領域に関する知識と基礎的な看護実践能力を身につけている
 3. グローバルな視点をもち、地域社会やあらゆる環境下において生活する人々の健康に貢献できる力を身につけている
 4. 看護の対象を理解し支援するための適切なコミュニケーション力を身につけている
 5. 多職種連携における看護職の役割を理解し協働できる
 6. よりよい看護を追求するための研究的思考を身につけている
 7. 社会の変化や保健・医療の高度化・情報化に関心をもち、自己研鑽する力を備えている
- 以上に示す看護学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）および佛教大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に示す力を修得した学生に対して学位（学士）を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP にて公表）

看護学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/>

（看護学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/nurse.html>）

（概要）

教育課程の編成方針

看護学部では、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき入学した学生が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識や能力を修得できるために、次に掲げる教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）5項目に添った教育課程を編成し実施します。

また、教育方法として、講義では、看護および多分野にわたる学問を通じ、看護職に必要な知識を体系的に学びます。演習では、学内で模擬実践を行い、看護技術やコミュニケーションスキル等を実践的に修得します。また、シミュレーション学習を中心とした、現場に近い環境での学修を行います。臨地実習では、病院や施設での体験学習を通じ、看護を支える思考とともに知識技術を活用し看護実践能力の向上を目指します。看護職に必要な知識、技術、態度を総合的に養成するため、講義、演習、実習を組み合わせ多面的に教育しています。

教育課程実施の方針

1. 社会人として必要な教養や看護職として求められる基本的な資質・能力を身につけ、人間性を涵養するために、仏教関連科目をはじめとした科目を配置する
2. 社会環境の中で存在する人間を包括的（全人的）に理解することを基盤として、対象となる人々の健康に関与する看護学の基本を学ぶ科目を配置する
3. 多様な看護の場において、対象の健康段階や発達段階の特性とニーズに応じた看護を展開する能力を身につける学科専攻科目を配置する
4. 看護の知識と技術を統合し、対象を中心とした多職種と連携する能力を身につける臨地実習科目を配置する
5. より良い看護を探究し、専門性の発展に貢献する看護学研究活動の基盤をつくる科目を配置する

学修成果の評価方針

全ての開講科目について、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これらをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価することにより、仏教精神を基盤に社会のニーズに応じた質の高い看護基礎教育を実現します。学生の学修成果は、定期試験、課題、発表等を用いて多角的な観点から評価します。また、臨地実習においては、学生が提出する記録物、実習態度等をふまえ、実習目標の達成度を総合的に評価します。具体的な評価方法は以下の通りです。

1. 筆記試験・レポート試験による評価
2. 演習科目での実技試験による評価
3. 実習科目での実習目標到達度（知識・技術・態度など）による評価
4. 授業への取組状況や授業内の小テストなど、科目担当者が指定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学HPにて公表）

看護学部：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/>

（看護学科：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/policy/f-nursing/nurse.html>）

（概要）

求める学生像

看護学部では、豊かな人間性と倫理観を基盤に看護職として人を思いやり共感できる人材の養成を目指しています。あわせて、看護学の学識と基礎的な看護実践能力、対象を理解し支援するためのコミュニケーション力、多職種と協働する力、自己研鑽する力、研究的思考やグローバルな視点を備え、地域社会や人々の健康に貢献できる人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

1. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、学習を継続する力を有する人【知識・技能】
2. 看護職に求められるスキルを高め、地域で生活する人々の健康に貢献したいという意欲がある人【知識・技能】
3. 看護学を学び、豊かな感性と論理的に考え判断する力、情報を活用する力を身につけようと努力できる人【思考力・判断力・表現力】
4. 他者の考えを知るとともに、自分の考えを自分の言葉で表現できる人【思考力・判断力・表現力】
5. 人への深い関心をもち、人の可能性を信じ、自分も他者も大切にできる人【主体的に取り組む態度】
6. 他者を思いやることができ、多様な人と主体的にコミュニケーションをとることができる人【主体的に取り組む態度】

大学入学までの学修の方針

そこで、高等学校等での学習は、コミュニケーション能力にかかわる「国語」「外国語（英語）」を中心に、「数学」「理科」なども含め、専門的な学習に必要な基礎的学力にかかわる教科についても幅広く学んでいることを望みます。

また、人に関心をもち、人と積極的にかかわる意志や姿勢を有していることを望みます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/outline/education/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5 人	—					5 人
仏教学部	—	6 人	5 人	3 人	0 人	0 人	14 人
文学部	—	15 人	6 人	8 人	0 人	0 人	29 人
歴史学部	—	11 人	8 人	2 人	0 人	0 人	21 人
教育学部	—	26 人	15 人	13 人	0 人	0 人	54 人
社会学部	—	18 人	9 人	4 人	0 人	0 人	31 人
社会福祉学部	—	15 人	7 人	2 人	0 人	0 人	24 人
保健医療技術学部	—	8 人	8 人	3 人	5 人	0 人	24 人
看護学部	—	10 人	5 人	5 人	10 人	0 人	30 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
5 人		227 人					232 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtm					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（通学課程）								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	60 人	69 人	115.0%	240 人	251 人	104.6%	－ 人	－ 人
文学部	220 人	261 人	118.6%	940 人	1,016 人	108.1%	－ 人	－ 人
歴史学部	200 人	208 人	104.0%	740 人	800 人	108.2%	－ 人	－ 人
教育学部	290 人	330 人	113.8%	1,160 人	1,279 人	110.3%	－ 人	－ 人
社会学部	320 人	342 人	106.9%	1,280 人	1,371 人	107.1%	－ 人	－ 人
社会福祉学部	220 人	228 人	103.6%	880 人	936 人	106.4%	－ 人	－ 人
保健医療技術学部	80 人	83 人	103.8%	515 人	555 人	107.8%	－ 人	－ 人
看護学部	80 人	89 人	111.3%	80 人	89 人	111.3%	－ 人	－ 人
合計	1,470 人	1,610 人	109.5%	5,835 人	6,297 人	107.9%	－ 人	－ 人
（備考）編入学定員は設けていないが、欠員等の状況により若干名の編入学者が在籍しており、要項に「学則に記載の数値を記載することを原則とする」とあるため上表には計上していない。								

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等（通信教育課程）								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
仏教学部	30 人	21 人	70.0%	380 人	261 人	41.4%	130 人	30 人
文学部	110 人	76 人	69.1%	1,680 人	1,137 人	61.1%	620 人	252 人
歴史学部	120 人	80 人	66.7%	1,440 人	975 人	68.7%	480 人	206 人
教育学部	90 人	83 人	92.2%	2,880 人	1912 人	50.4%	1,230 人	507 人
社会学部	50 人	33 人	66.0%	420 人	286 人	10.8%	110 人	42 人
社会福祉学部	50 人	25 人	50.0%	720 人	432 人	26.2%	260 人	43 人
合計	450 人	318 人	70.7%	7,520 人	5003 人	41.7%	2,830 人	1080 人
（備考）入学定員変更後の収容定員は、学年進行により適用している。								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数（通学課程）				
学部等名	卒業生数・修了者 数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
仏教学部	62 人 (100%)	6 人 (9.7%)	47 人 (75.8%)	9 人 (14.5%)
文学部	220 人 (100%)	8 人 (3.6%)	191 人 (86.8%)	21 人 (9.6%)
歴史学部	188 人 (100%)	12 人 (6.4%)	153 人 (81.4%)	23 人 (12.2%)
教育学部	298 人 (100%)	19 人 (6.4%)	259 人 (86.9%)	20 人 (6.7%)
社会学部	304 人 (100%)	7 人 (2.3%)	270 人 (88.8%)	27 人 (8.9%)

社会福祉学部	219 人 (100%)	4 人 (1.8%)	203 人 (92.7%)	12 人 (5.5%)
保健医療技術学部	132 人 (100%)	1 人 (0.7%)	126 人 (95.5%)	5 人 (3.8%)
合計	1,423 人 (100%)	57 人 (4.0%)	1,249 人 (87.8%)	117 人 (8.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 本学のシラバスは、学生に授業の進め方や到達目標を明示するため「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」「毎回の授業テーマ・内容」「到達目標」「授業時間外の学修(予習・復習等)についての具体的な指示」「受講にあたっての留意事項」「成績評価の基準」「テキストについて」の項目を設け、本学ホームページ等で公表している。 また、受講する学生が計画的に学習する習慣や、授業時間外学習をする習慣を身につけることができるツールとしても位置付けられている。 シラバス作成時には、「シラバス作成要領」を教員に配付し、各項目の記入における注意事項を明記し、標準化された基準に沿って作成を促す等、授業の質向上に努めている。 また、授業設計における PDCA サイクルの実現に向け、共通科目、学部専門科目を対象に、第三者によるシラバス点検も例年実施しており、授業計画や内容の充実に努めている。 〔通信教育課程〕 通信教育課程も通学課程と同様であるが、自宅学習が基本となる「印刷教材等による授業(本学ではテキスト履修と称する)」においては対面による授業を行わないことから、「毎回の授業テーマ・内容」の代わりに、当該テキスト履修科目の「レポート設題」および「レポート学習の留意点」の項目を設けるなどの工夫を行っている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果の可視化に向けて、1～3年生を対象にアセスメントテスト(佛大生基礎力テスト)を実施し、論理力・表現力・チームワーク力・主体性・多様性理解力の5つの汎用的能力を測定している。さらに、テスト結果と4年生対象の「卒業時調査」、卒業生就職先への「企業等調
--

査」を組み合わせ分析し、学修成果やディプロマ・ポリシーの達成度を検証するとともに、教育改革・改善に活用している。また、本学ではアセスメント・ポリシーに基づき、「佛大生基礎力テスト」「卒業時調査」「企業等調査」等の結果を公表し、学位プログラムの評価・改善および学修成果の可視化を通じて社会的説明責任を果たしている。

また、学修成果に対する評価については、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、定期試験、レポート、実技等のような方法によって評価するかを予め明示している。

また、2019年度1年次入学者から適用のカリキュラムでは、GPAによる成績評価が導入され、それと同時に全学の「成績評価の基準」を設けたことにより、さらに標準的で厳格な成績評価が可能となっている。

また、佛教大学のディプロマ・ポリシーは、通学課程および通信教育課程ともに以下に示す力を修得するとともに、学部・学科の人材養成の目的に基づいて設定された教育課程を修めた学生に対して、本学は卒業を認定し学位（学士）を授与します。

仏教精神

仏教精神に基づく4つの力、①自分を客観的にとらえる力、②目標に向かって継続し努力する力、③周りの人を思いやる力、④多様性を受け入れて協力する力を身につけ、専攻する学問分野の知識や技能と統合して活用することができる

知識・理解・汎用的技能

社会人として必要な幅広い教養や、専攻する学問分野の体系的な理解に不可欠な多様な知識・技能を身につけ、活用することができる

5. 多文化・異文化に関する知識により、多様な視点で物事を考えることができる

6. 文化、自然、社会に関する知識により、体系的に物事を考えることができる

7. ICTを活用して、多様な情報を収集・分析し、効果的に活用することができる

8. 自己理解を深め、職業観を持ち、自らのキャリアを決定することができる

専攻する学問分野における専門的な知識や技能を修得し、社会における諸問題を把握・解決するために、その知識・技能を活用することができる

5. 専門領域に必要な基礎的な知識や視点を習得している

6. 専門領域の深い知識や技能を習得している

7. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現することができる

8. 社会における問題を把握し、解決に必要な情報を収集・分析し、表現することができる

態度・志向性

社会の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、専攻する学問分野で身につけた知識や技能等をもとに、社会に貢献することができる

学びと成長への内発的動機

自ら探求したい課題・テーマを見出し、目的や目標を定め、生涯にわたり主体的に学び続けるとともに、経験や実践を振り返りながら身につけた多様な能力を統合し、新たな学びへとつなげることができる。さらに、他者と協働し、共に成長する意欲や姿勢を持ち続けることができる。

以上を大学の基本とし、各学部学科においてもディプロマ・ポリシーを制定している。

また、学部学科ごとに卒業所要単位と要件、卒業論文・卒業研究・卒業レポート作成・提出の手順および卒業所要単位充足者発表のスケジュール等を学生に示している。

〔通信教育課程〕

通信教育課程の学修成果に係る評価および卒業の認定に対する認定については、通学課程同様、シラバスに記載されている「到達目標」の達成度を基準としたうえで、テキスト履修については科目最終試験、スクーリング履修については試験またはレポートによって評価する旨を

明示している。 また、通信教育課程では GPA を導入はしていないが、従来の成績評価により厳格かつ適正に評価を行っている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
仏教学部	仏教学科	124 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科	124 単位	有・無	単位
	中国学科	124 単位	有・無	単位
	英米学科	124 単位	有・無	単位
歴史学部	歴史学科	124 単位	有・無	単位
	歴史文化学科	124 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	124 単位	有・無	単位
	幼児教育学科	124 単位	有・無	単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	単位
社会学部	現代社会学科	124 単位	有・無	単位
	公共政策学科	124 単位	有・無	単位
社会福祉学部	社会福祉学科	124 単位	有・無	単位
保健医療技術学部	理学療法学科	124 単位	有・無	単位
	作業療法学科	124 単位	有・無	単位
	看護学科	124 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
仏教学部	仏教学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
文学部	日本文学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	中国学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	英米学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
歴史学部	歴史学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	歴史文化学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
教育学部	教育学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	幼児教育学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
社会学部	現代社会学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
	公共政策学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
社会福祉学部	社会福祉学科 (通信教育課程)	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/access/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
仏教学部	仏教学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
文学部	日本文学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	中国学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	英米学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	歴史学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
歴史学部	歴史文化学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
教育学部	教育学科	在学生 960,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 920,000 円 在学生 960,000 円	250,000 円	新入生 130,000 円 在学生 340,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	幼児教育学科	在学生 960,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 920,000 円 在学生 960,000 円	250,000 円	新入生 130,000 円 在学生 340,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	臨床心理学科	在学生 960,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 920,000 円 在学生 960,000 円	250,000 円	新入生 130,000 円 在学生 340,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
社会学部	現代社会学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	公共政策学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
社会福祉学部	社会福祉学科	在学生 910,000 円	-	200,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 870,000 円 在学生 910,000 円	250,000 円	新入生 100,000 円 在学生 310,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
保健医療技術学部	理学療法学科	在学生 1,390,000 円	-	400,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 1,350,000 円	250,000 円	新入生 250,000 円	その他は教育充実費

		在学生 1,390,000 円		在学生 450,000 円	2026 年度以降入学者
保健医療技術学部	作業療法学科	在学生 1,390,000 円	-	400,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 1,350,000 円 在学生 1,390,000 円	250,000 円	新入生 250,000 円 在学生 450,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
	看護学科	在学生 1,390,000 円	-	400,000 円	その他は設備費 2025 年度以前入学者
		新入生 1,350,000 円 在学生 1,390,000 円	250,000 円	新入生 250,000 円 在学生 450,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
看護学部	看護学科	新入生 1,350,000 円 在学生 1,390,000 円	250,000 円	新入生 250,000 円 在学生 450,000 円	その他は教育充実費 2026 年度以降入学者
仏教学部	仏教学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
文学部	日本文学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	中国学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	英米学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
歴史学部	歴史学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	歴史文化学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
教育学部	教育学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	幼児教育学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
社会学部	現代社会学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
	公共政策学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料
社会福祉学部	社会福祉学科 (通信教育課程)	145,000 円	30,000 円	5,000 円	その他はシステム利用料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の履修状況等の確認を行い、その状況を各学科担当教員に報告のうえ、低単位修得や欠席傾向にある学生の個別面談等の実施につながるよう支援している。 また、学生支援課内に「なんでも相談窓口」を設置し、履修相談を含め、学生生活全般に関する相談対応も行っている。 (通信教育課程) 通信学生課内に学習相談室を設置して、履修相談・学生生活全般に関する個別相談対応を行っている。また、全国に学習サポーターを配置し、学友会組織と連携しながら、学習会などの際に学修や学生生活に関する個別相談対応を行っている。 加えて、定期的に「レポートの書き方学習会」、「卒業論文の取り組み方学習会」等の補充学習の機会や、「佛大通信オフィスアワー」を開催し、学生が教員に質問する機会を設けている。 特に新入生においては、入学時期に大学生活をスタートするための準備として、「新入生オリエンテーション」を開催して、学部での学びの内容や履修方法の説明などを行いサポートにあたっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組

((概要) 進路就職課のスタッフの他、キャリア・アドバイザー（10名）体制で学生の支援をしている。キャリア・アドバイザーの面談では、進路に関する相談や履歴書・エントリーシートの添削、面接練習など、昨年度は3,074件の相談があった。この面談は、学内の他、大阪の中津にサテライトを設けて実施している。また、本学は就職先が多岐に渡るため、共通の就職ガイダンス以外にも分野ごとのガイダンスやセミナーを実施しており、その数は年間約190件実施している。学年に応じ実施する内容を精査し、就職活動時や社会人として必要なことを段階的に学べるように工夫している。その他にも求人情報の閲覧システム、支援冊子の作成および配付、学内での企業説明会、採用試験対策などあらゆる角度から学生を支援している。また、オンラインと対面の両方の選考に対応すべく、対面での対策に留まらず、オンラインでの面接演習も取り入れている。 (通信教育課程) 通信教育課程の学生はすでに職に就いているものがさらなる教員免許状や諸資格を取得するキャリアアップを目的としているため、進路に関する相談はほぼない状態ではあるが、学部本科生（大学卒業を目指す者）でなおかつ初めて職に就くなどで相談を希望する者については通学課程に準じ、進路就職課において、進路・就職に関する支援を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学生が希望する場合、入学手続き時に「心身に関する申告書」を提出させ、大学生活において留意すべき心身の状態や配慮内容を確認している。さらに、必要に応じて、本人からの「障害・疾病の状況説明及び合理的配慮申請書」や医療機関からの「主治医意見書」、出身学校からの「支援情報提供書」をもとに、学生支援センターを中心に学生相談センターおよび健康管理センターと連携しながら、関係部署および教員との情報共有を図り、支援を行っている。 (通信教育課程) 全学生から入学手続き時に「心身に関するアンケート」を提出させ、大学生活において留意すべき心身状況を確認している。必要に応じて、「心身に関する申告票」の提出により、修学に関する心身上の相談について、書面または個別面談により対応している。さらに、合理的配慮を提供する場合には、障害者手帳や主治医の診断書等の根拠書類を確認したうえで、「修学における配慮合意書」を作成し、提供する配慮内容を明文化するとともに、本人の同意を得たうえで配慮提供をおこなっている。また、スクーリング科目によっては、授業担当教員と、情報共有・連携しながら支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/about/data/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F126310107605
学校名（〇〇大学 等）	佛教大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人佛教教育学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1593人（930）人	1552人（909）人	1656人（978）人
内 訳	第Ⅰ区分	478人	463人	
	（うち多子世帯）	101人	94人	
	第Ⅱ区分	228人	216人	
	（うち多子世帯）	38人	35人	
	第Ⅲ区分	125人	130人	
	（うち多子世帯）	29人	37人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	197人	184人	
	区分外（多子世帯）	565人	559人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				1658人（978）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	23人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	36人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	14人	人	人
計	74人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	22人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	—	人	人
GPA等が下位4分の1	213人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	218人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。